

# 改めて考えたい新聞の価値

宮崎県N I E推進協議会会長

飛田 洋

デジタル教科書の採用も待ったなしとの報道もある。ネット全盛とも言われる今、紙媒体の新聞は今その良さをどうアピールできるだろうか。

ある新聞で紹介された小学6年生の俳句を紹介したい。

「教科書のページわずかで春近し（八尋真子）」

この感性の豊かさに私はうなずいてしまった。デジタル教科書になったらこの俳句どうなるのだろう。

実は、子どもの頃、新しい教科書には何か不思議な香りがあると私は感じていた。それはたぶん印刷インクのおいであっただろうが、その香りで、柄にもなく「まじめに勉強したい」と思う新鮮な決意をする飛田の4月があった。

こんな思い出もある。高校で生物教員をしていた頃のことである。受精したばかりでは受精卵は単細胞である。それが二つになり、四つになりと、だんだん増えていき、幼生や胎児ができていく。そのことを生物学では「発生」という。そんな単元の授業をしていたある時、教科書の角に、ぱらぱら漫画として細胞が増えていく様子を描き、「先生どう。このアニメいいでしょう」と自慢した教え子がいた。デジタルでは「教科書の角のキャンバス」で絵画の才能も磨けない。

そんなことを言っているだけでも、デジタル社会の到来は避けられない、いやもうすでに到来しているとも言えよう。ならば、デジタル教材に教科書はすべて移行していいのか。いや、この議論で「タブレット端末を児童生徒ひとり一人に持たせる予算がないから、デジタル教科書の導入は、時期尚早」とかいう声があるがそれは話の本質ではない。デジタル教材そのものを否定するのではないが、デジタル教材での学び・その功罪についてももっとも本質的な問題の議論をすべきだと考える。

ところで、近代日本の教育が大きく変わった転換点が三つあると私は考える。その一つが、明治維新、二つ目が第二次世界大戦、しかし、もっと大きい転換点は、高度経済成長時代・昭和の東京オリンピックの頃の時代のように思えてならない。

明治から昭和、それまで継続してきた日本の家庭の有り様、地域の姿が大きな変容を遂げるのが、高度経済成長時代・昭和の東京オリンピックの頃の時代ではなかったのか。私は、教育にとって最も大切なものは「温かい人的環境と困難」と考える。

風呂の水をバケツで井戸から「つるべ」（すでに死語か）でくむ。食事の支度を自分で準備した薪で行う。家族の全員分の洗濯を手洗いする。牛や馬そして人力で田畑を耕す。例を挙げたらきりが無いが、それが明治から昭和の30年代までの生活の普通であった。

文明の発達、便利さや、家事労働からの解放をもたらした。そのことは、手伝いの機会や困難と向き合うという最高の教材を子どもたちから遠ざけた。ほとんどが第1次産業に従事していた時代、労役を含め相互扶助は普通であったし、集落は共同体であった。そんななかで特に意識することもなく温かい人間関係は日常のこととして醸成されていた。自分の家も含め多くの人々は貧乏であったが、その時代・子どもの時分の私は、貧困とか格差を意識することはあまりなかった。

それらの日本の伝統的な教育風土の良さが、高度経済成長時代の「効率化・便利さ」や「経済性」等の追求の中で、ほとんど検証されずに失われたことが、現在の日本の教育の問題を引き起こしているように思えてならない。先行きの見えない時代を迎えた今、教育界では今アクティブラーニングという言葉がもてはやされているが、困難・苦労と否応なく向き合う日常では、その解決に向け、アクティブラーニングなど日常のことであったはずである。

精密なねじは、たった0.1mmの狂いでも使いものにならないが、緊急事態の土砂崩れを防ぐために打ち込む棒杭は、強度があれば少々サイズの違いなどどうでもいい。技術として精密工作は大切だ。しかし、時代は「ちょっとの揺らぎでも使えない精密なねじみたいな教育」を求めているのか。人づくりでは「棒杭みたいなしたたかでおおらかなスケール」が今求められるのではないのか。

教材が、デジタルなのか紙なのか、それとも両方なのか。その検討に当たっては、あえて効率的でないものの良さ・非効率の役割、苦労して調べ手に入れ自分の頭で考える良さなどにも目を向けるべきであろう。「効率化・便利さ」の追求は部分的にはあってもいいが、その陰で失うものをしっかり検証することを忘れてはならない。新聞も今まさに同様の意味でその存在価値を問われている。朝刊のインクのおいさをノスタルジーにしまわれないためにも、今改めて新聞の役割を考えたい。

今年も、現場の多くの教員の皆様方のおかげで、N I Eの貴重な実践の記録を残すことができた。これらの記録資料は、新聞が教育で果たしてきた役割を検証するとき大切な資料となろう。本冊子は、新聞の価値を引き出していただいた生の記録、実践に裏打ちされた宝であると考えている。

教育のデジタル化が叫ばれる昨今であるからこそ、活字の魅力を伝えるこれらの記録の価値、その輝きは一層増しているように思えてならない。関係の皆様方に深く敬意を表したい。